

主 題：偽教師への神のさばき 5

聖書箇所：ペテロの手紙第二 2章17-19節

神のさばきを受ける偽教師たち、ペテロは彼らの本性を明らかにしました。彼らはいったいどのような者たちなのか？そのことを明らかにしたのです。これまで私たちは彼らの隠れた本性を七つ学んで来ました。

C. 暴露された偽教師たちの罪・真実

この偽教師たちが確実にさばかれる理由 10-16節

1. 肉の奴隷たち 10 a 節

2. 権威を侮る者たち 10 a 節

彼らは主を信じていないゆえに主に従おうとしていない。そういう人たちが教師であったのです。そうすると間違いなく教会には分裂や分派が存在したはずですが、みことばの権威に従おうとしない。みことばの教えに従おうとしない。大変な状態にあったことが推測できます。

3. 大胆不敵な者たち 10 b 節

4. 尊大な者たち 10 b 節

5. 高慢な者たち 10 b—13 a 節

6. 惑わす者たち 13 b—14 節

彼らの関心は自分たちの欲望や快楽をどうすれば満たせるか？そのことしか考えていません。それが彼らの生き甲斐だったのです。しかも、その欲望のままに生きる生き方を彼らは隠すことなく、昼間から堂々として行っていました。彼らの心の中には性的願望、また、物欲に満たされていたのです。だから、ペテロはまさに彼らは「しみや傷のようなもの」である、つまり、彼らは神の前に汚れた者であると指摘するのです。また、14節には「彼らはのろいの子です。」と書かれています。だから、彼らには永遠の地獄がふさわしいとペテロは教えたのです。

7. 強欲な者たち 15-16節

しかも、彼らは非常に強欲な者たちでした。彼らは真直ぐな真理の道を意図的に捨てて、あの預言者バラムが金に惑わされたように、そのような欲に惑わされた、そういう人たちであるとペテロは教えました。

今日、私たちが見ていくのは、17-19節に記されている八つ目のことです。

8. 偽善者たち・誘惑する者たち 17-19節

ここでペテロは彼らは人々を誘惑する者であり、偽善者であると教えます。

1) 彼らの実態 17節

ペテロは二つのたとえを使って彼らの実態を明らかにします。17節「この人たちは、水のない泉、突風に吹き払われる霧です。彼らに用意されているものは、まっ暗なやみです。」

(1) 水のない泉：泉は底から湧き上がって来る水によって人々の渇きを満たしました。イエスはこの「水」というたとえを用いて何度もその真理を話されました。「わたしのもとに来るならあの泉と同じようにあなたがたの心の渇きを満たそう」と。ヨハネ4：14で「しかし、わたしが与える水を飲む者はだれでも、決して渇くことはありません。わたしが与える水は、その人のうちで泉となり、永遠のいのちへの水がわき出ます。」と言われました。また、ヨハネ7：37-38にもこのように書かれています。「：37 さて、祭りの終わりの大いなる日に、イエスは立って、大声で言われた。「だれでも渇いているなら、わたしのもとに来て飲みなさい。：38 わたしを信じる者は、聖書が言っているとおり、その人の心の奥底から、生ける水の川が流れ出るようになる。」、イエスはこうして渇きを覚えている罪人に招きを与えました。わたしのもとに来るならその渇きが満たされると。イエスはそのように言われただけでなく、確かに、イエスのもとに来た人たちの渇きを満たしてくださいました。

それを証明できるのは私たちです。確かに、イエスのもとに来たときにこの心の渇きが満たされ、新しく生まれ変わらせてくださった。かつて、いろいろなものに満足を得ようとしていたけれど、主イエス・キリストを信じることによって本当の満足が与えられたのです。確かに、イエスが言われたとおりであると、そのことを証できるのは救いに与った私たちです。

ところが、この偽教師たちの問題は、約束は確かにすばらしいけれどそれを果たすことができないということです。なぜなら、泉には水があるはずですが、彼らは泉のようであってもそこに水がないのです。全く期待外れの者たちです。

(2) 突風に吹き払われる霧

そのことは次のことばでも同じことを教えます。「突風に吹き払われる霧」と。「霧」ということばは聖書にはここにしか出て来ません。

・「突風」：新約聖書には3回しか出て来ません。後の2回はマルコ4：37とルカ8：23です。ガリラヤ湖にあって弟子たちが舟に乗っているときに突風が起って舟が進まなくなった。「4:37すると、激しい突風が起こり、舟は波をかぶって、水でいっぱいになった。」「8:23舟で渡っている間にイエスはぐっすり眠ってしまわれた。ところが突風が湖に吹きおろして来たので、弟子たちは水をかぶって危険になった。」、今でもガリラヤ湖ではこの突風が吹いてくると、たとえモーターが付いていても前に進めないほどの激しい風です。そのことばがここで使われているのです。

・「吹き払われる」：風が舟に吹き付けて舟が進むように、強い風が吹いて来ると霧が一瞬のうちに無くなってしまふ。つまり、どんなに偽教師たちの約束、教えがすばらしくても、それは「霧」と同じで一瞬のうちに消えて無くなってしまふ、それほどむなしなものだと、ペテロはそのように言うのです。乾燥した地域ではこの「霧」は期待を持たせるものです。そこに水分があるからです。しかし、風が吹いて来ると、あっという間に霧が晴れてしまい、期待さえもなくなってしまいます。まさに、偽教師たちのことです。約束を果たすことができるかのように期待を持たせておきながら、実際は、それを叶えることはできないと。そのことをペテロはこの二つのたとえをもって説明するのです。

ですから、この偽教師たちは、渴きを満たす水や霧、雨のようなものを約束しながら、結局、彼らはそれを果たすことができないのです。まさに偽善者であると、そのことをペテロは教えるのです。

偽善ということを考えてとき思い出しませんか？あのエデンの園での出来事です。サタンが女を誘惑し罪へと陥れていくのですが、そのとき蛇はエバにこのように言います。創世記3：4、5「4そこで、蛇は女に言った。「あなたがたは決して死にません。5あなたがたがそれを食べるその時、あなたがたの目が開け、あなたがたが神のようになり、善悪を知るようになることを神は知っているのです。」、サタンは「死なない」と約束します。全く偽りです。サタンは自分がもっていないいのちをあたかも持っているかのようにこの約束を与えました。「神のようになり」と言われた、こうしてサタンは偽りをもってエバを騙しました。

偽善、騙すこと、嘘、まさに、これはサタン自身の性質を表すものです。イエスが言われたとおりです。ヨハネ8：44「あなたがたは、あなたがたの父である悪魔から出た者であって、あなたがたの父の欲望を成し遂げたいと願っているのです。悪魔は初めから人殺しであり、真理に立ってはいません。彼のうちには真理がないからです。彼が偽りを言うときは、自分にふさわしい話し方をしているのです。なぜなら彼は偽り者であり、また偽りの父であるからです。」と。「偽り」こそが彼の特徴だと言っています。まさに、ここに見る偽教師たちも同じことをするのです。偽りをもって人々を惑わし続けているのです。

ですから、ペテロはこう言います。17b節「彼らに用意されているものは、まっ暗なやみです。」と。

・「真っ暗なやみ」：これは地獄のことです。すでにIIペテロ2：4で学びました。「神は、罪を犯した御使いたちを、容赦せず、地獄に引き渡し、さばきの時まで暗やみの穴の中に閉じ込めてしまわれました。」、また、ユダ13節にも「自分の恥のあわをわき立たせる海の荒波、さまよう星です。まっ暗なやみが、彼らのために永遠に用意されています。」とあります。これが永遠の地獄であることは確かです。なぜなら、彼らがやっていることを見たときに、永遠のさばきこそが彼らにふさわしいところだからです。

2) 彼らの行い 18-19節

まず、ペテロはこの偽教師たちの実態を明らかにしました。そして、その上で、18-19節には彼らの「行い」が述べられています。「18彼らは、むなしの大言壮語を吐いており、誤った生き方をしている、ようやくそれをのがれようとしている人々を肉欲と好色によって誘惑し、19その人たちに自由を約束しながら、自分自身が滅びの奴隷なのです。人はだれかに征服されれば、その征服者の奴隷となったのです。」、彼らがどんな罪を犯しているのか？三つ出て来ます。

(1) 真理を語らない罪 18節

「彼らは、むなしの大言壮語を吐いており、」とあります。

・「むなし」：「無益な」という意味です。確かに、彼らが語っていることは聞いていると立派です。聞いているとそれらしいのです。恐らく、魅力的に響いたのでしょう。しかし、なぜ、ペテロはここでそれを「むなし」と言ったのか？彼らの語っていることはまさに絵空事に過ぎない、神の真理に基づいていないからと言います。もし、感動的な話を聞きたいなら、そういうことを語る所に行けばいいでしょう。もし、慰めの話が聞きたければ、そういう話に長けている人のところに行けばいい。でも、どんなに立派な人の話を聞いても、それは神の真理に優るものではありません。語っている人間は限界がある者であり、罪に汚れた者だからです。その人たちの話を聞いて何のプラスになるでしょう？もちろん、少しの慰め励ましがあられるでしょう。必要な人間の知恵があるかもしれません。

でも、私たちを変えようとする力を持っているのは人間の知恵ではありません。それは神の真理です。神の真理によって私たちは罪から解放され、神の真理によって日々変えられて行くのです。なぜ、人間がこの

世にいるのか？何のために生きているのか？神とはどういう存在なのか？死を迎えた後どうなるのか？世界はこの後どうなるのか？神は神のことばの中にそれらの真理を記してくれています。浜寺聖書教会がこれからどれだけ続くのか？それは分かりません。再臨が来るまでです。しかし、少なくとも、この教会の特徴として、「私たちが聞きたいのは神のことばです。語るなら聖書のことばを、聖書の真理を語ってください。」と言います。

聖書を使って興味深い話をする人はたくさんいます。人が聞きたいことを話す人もいます。でも、それは聖書の真理ではありません。聖書の真理を語るなら、それは聞いている人の心に語られていきます。あなたの過ちを認めさせます。あなたを正しい方向に導いていこうとしました。神のみこころがあなたの心の中に為されようとしています。そのメッセージは私たちが聞きたいメッセージでないかもしれません。聞いていて耳が痛いメッセージかもしれません。しかし、それが神があなたに語っておられるメッセージです。少なくとも、教会の皆さんは、語られているメッセージが本当にそれは神が言われていることかどうか？それを吟味することです。私たちが知りたいのは神のおことばです。神が語っている真理です。

ですから、ペテロは彼らがどんなに魅力的なことを語っていても、どんなに感銘を与えるようなことを語っていても、それらは神の真理ではないから「むなしい」と、そのようにここに記したのです。

・「大言壮語」：これは「横柄な、思い上がった」という意味です。このことばが私たちに教えることは、偽教師たちはいろいろなことを人々の前で自慢していたのででしょう。「私はあなたがたの知らない大切な真理を知っている」と言っていたかもしれません。彼らは自分たちが経験したという特別な経験を誇り高ぶっていたかもしれません。いずれにせよ、彼らは自分たちを人々によく見せようとしていたのです。その姿をペテロは私たちに教えるのです。ユダ16節に「彼らはぶつぶつ言う者、不平を鳴らす者で、自分の欲望のままに歩んでいます。その口は大きなことを言い、利益のためにへつらって人をほめるのです。」と書かれているとおりです。

・「吐いており」：これは「語る」ということです。しかもこれは現在形です。こういうことを行い続けていた、このようなメッセージを彼らは語り続けていたのです。

ですから、彼らの大きな罪は「真理を語っていなかったこと、神のおことばを語っていなかったこと」です。

(2) 真理を惑わす罪 18節

二つ目の彼らの罪は「真理を惑わす罪を犯していた」ことです。偽教師たちはことばにおいて人々を惑わし続けていたのです。でも、問題はそれだけではなかった、彼らは継続して人々を誘惑し続けていたのです。18節「誤った生き方をしている、ようやくそれをのがれようとしている人々を肉欲と好色によって誘惑し、」とあります。

・どのように誘惑していたのか：「肉欲と好色によって」とあります。すでに見て来たことですから詳しく説明しませんが、

⇒「肉欲」＝肉、罪の性質から生まれて来る願望のことです。神に喜ばれることなど微塵も考えない、自分の肉がもたらす願望、欲、それらをもって誘惑していたのです。

⇒「好色」＝このことばは新約聖書に10回記されています。異性に対する性的な誘惑のことです。そのような思いをもって彼らは教会の人々を惑わしていたのです。

彼らはこの「惑わす」という働きを行っていたのですが、それは彼らにとって難しいことではなく、非常に容易いことでした。なぜなら、彼らはそのように生きていたからです。自分がやっていないことをするのは大変でしょう。この箇所が私たちに教えることは、この偽教師たちは人々を「肉欲と好色によって」誘惑していたということは、まさに、彼ら自身がそのように生きていたからということです。なぜそのことが分かるのか？

⇒「よって」＝この前置詞がそのことを明らかにしています。「肉欲と好色によって誘惑し、」とは「肉欲と好色」が誘惑の道具であると見ることができますが、でも、この前置詞は、この偽教師たちが生きていた自分たちの領域、自分たちがどこに生きているのか？それを表すことばです。

ですから、彼らはそのように生きていた、そして、その生き方をもって彼らは人々を誘惑していたのです。このように誘惑することは彼らにとって容易いことです。彼らはその生き方を愛しそのように生きていました。

・だれを誘惑していたのか：18節に「誤った生き方をしている、ようやくそれをのがれようとしている人々」とあります。これが彼らの誘惑の対象です。

・「誤った生き方をしている」：

⇒「誤った」＝「迷っている、惑わされた」という意味があります。新約聖書に10回出て来ます。ケリーという一人の神学者は「このことばは特に偶像崇拜、もしくは、異教を表すことばである」と言

います。「異教」とは「異なった教え」です。そういう意味があると説明します。

⇒ 「生き方をしている」＝文字通り「生活すること」です。しかも、現在形ですから、そのように彼らは生き続けていたのです。ということは、この誘惑されていた人々は、

* 「偶像や異教」によって惑わされ、真理の道から迷い出た生活をしていた者たち

敢えて、そのように強調したのは、今は、その生活から出て来ているからです。そのことは後で説明します。彼らは「誤った生き方をしていた」のです。この中で「誤った生き方をして来なかった」人はいますか？つまり、真理から外れた生き方です。イザヤはこのように言いました。イザヤ書53：6「私たちはみな、羊のようにさまよい、おのおの、自分かってな道に向かって行った。しかし、【主】は、私たちのすべての咎を彼に負わせた。」と。つまり、自分のやりたいことをしていたのです。神のみこころではなく、自分のしたいことをやっていたのです。私たちはそのように生きて来ました。

パウロはエペソ書2章で、かつての私たち、救いに与る前の姿について、皆さんもよくご存じのとおりこのように言っています。エペソ2：1-3、12「1 あなたがたは自分の罪過と罪との中に死んでいた者であって、2 そのころは、それらの罪の中にあつてこの世の流れに従い、空中の権威を持つ支配者として今も不従順の子らの中に働いている霊に従つて、歩んでいました。3 私たちもみな、かつては不従順の子らの中にあつて、自分の肉の欲の中に生き、肉と心の望むままを行い、ほかの人たちと同じように、生まれながら御怒りを受けるべき子らでした。」「12 そのころのあなたがたは、キリストから離れ、イスラエルの国から除外され、約束の契約については他国人であり、この世にあつて望みもなく、神もない人たちでした。」、偽教師たちの姿とよく似ていませんか？私たちも「自分の肉の欲の中に生き、肉と心の望むままを行い、ほかの人たちと同じように、生まれながら御怒りを受けるべき子らでした。」、パウロがここに記した救われる前の姿、まだ、救われていない人の特徴と、今、ペテロが示している偽教師たちの特徴は非常によく似ています。

彼らも神などどうでもよかった、自分たちの思いのままに、快樂のままに生きていました。それが彼らの生きていた領域だったのです。この人たちは、

・ **ようやくそれをのがれようとしている人々** : このように書かれています。やっとの思いでそこから脱出するということです。つまり、誘惑を受けている人たちは、偽りのうちに生きている人からようやくのがれようとしている、偽りの生活からようやくのがれ出て来ようとしている人たちです。別の言い方をすれば、彼らは偶像礼拝や異教の生き方が間違っていることに気付いただけでなく、そこからののがれようとしているのです。これは信仰の幼子たちです。救いに与ったけれど、まだ、信仰的には幼い者たちです。

なぜ、そのように言えるのか？思い出してください。ペテロがなぜこの手紙を記したのか？それは「信仰の幼い者たちが偽りの教師たちから悪影響を受けていたこと」をペテロが知ったからです。Ⅱペテロ3：1に「愛する人たち。いま私がこの第二の手紙をあなたがたに書き送るのは、これらの手紙により、記憶を呼びさまさせて、あなたがたの純真な心を奮い立たせるためなのです。」と書かれています。ペテロがこの手紙を書いたその目的をこのように記しているのです。ペテロが知ったことは、この教会の人々が偽教師たちから悪影響を受けていたことです。しかも、悲しいことに、この信仰的に幼い人たちはこのような偽教師たちから学びを受けようとしていたのです。偽教師たちは彼らを惑わしていた。それでペテロはこの手紙を送るのです。

ですから、1章ですでに学びましたが、ペテロはこの人たちに対して「あなたがたが教えられた真理にしっかりと立ち続けなさい。」と教え、また、霊的成長のことも教えました。というのは、ペテロは言います。「神から与えられた信仰は必ず霊的に成長するものだ。」と。神は成長しない信仰、死んだ信仰を与えたのではありません。神は生きた信仰をくださった。その信仰は私たちのうちにあつて成長するものです。ですから、ペテロはそのことを神は望んでおられるということを1：4で教え、では、どうすれば具体的に信仰において成長するのか？そのことを5-8節で教えました。そして、12-13節で「しっかりと神のみことばに立ち続けるように」と彼らを鼓舞するのです。

なぜ、そのように教えたのか？繰り返しますが、ペテロはこの教会にどのような問題が起こっているのか？偽教師たちがどのような悪影響を及ぼしているのか？新しい信仰者たちがこのような教えによって混乱している様子を聞いたから、ペテロは彼らに対して、しっかりと真理に立つようと教えるのです。

ですから、18節にあるように、誤った生き方をしていたけれど、そのことに気付いてそこからようやく救いをいただいてのがれようとしている人たち、より神に喜ばれる者へと変えられて行くことを願って、かつての古い生き方から離れて正しく歩んで行こうとしている人たち、この人たちを偽教師たちは誘惑していたのです。

3) 真理を知らない罪 19節

ここには偽教師たちの三つ目の罪が書かれています。

☆問題点 : 彼らは真理を語っていなかっただけでなく、真理を惑わしていただけてもいない、三つ目

に言われていることは、「彼らは真理を知らなかった」ということです。19節「その人たちに自由を約束しながら、自分自身が滅びの奴隷なのです。」

1) 誤った「自由」を教えていた

この偽教師たちは信仰の幼い者たちに対して「自由の約束」を語り続けていました。まさに、これが彼らが語ったメッセージの核心であったということが分かります。しかし、そこには大きな問題がありました。というのは、彼らは聖書的な正しい自由を教えていたのではなく、誤った自由を教えていたのです。この偽教師たちは偶像や異教によって惑わされ、真理の道から迷い出るといった誤った生き方をしていたことに気付き、信仰によってようやくその生活から逃れ、そこから離れた生活をしようとしている人たちに、そのように生きることのできる自由、信仰において成長することができる自由を約束し、それを教えようとしたのです。

しかし、彼らが教えた自由は、罪や誘惑というかつての誤った教えからの自由ではなく「真理からの自由」です。つまり、彼らが教えたことは、基本的には「自分の好きなように生きたい」ということです。自分の快樂の赴くままに生きればよいと。なぜなら、彼らがそのように生きていたからです。

2) 自分たちにはない「自由」を約束していた

彼らは「クリスチャン生活は道德律法に縛られたものではない」ということを教えるのです。彼らはクリスチャンユダヤ人たちを苦しめて来た「こうしなければならない。こうしてはいけない。」という律法から解放された、だから自由に生きることが出来るのだと言います。まさに、これは無律法主義者の教えと同じです。律法のない考え方です。

好きに生きたい、自由を得たのだから、これまでのように「これをしてはいけない、これをしなければならない」というようなことに束縛されることなく自由に生きることができると、これが彼らの教えた自由だったのです。

よく似ていると言った無律法主義者の考え方、こういう教えが生まれて来たのには理由があります。「行いによる救い」という誤った考え、その教えを極端に警戒する余りに、クリスチャンはいかなる行いからも、つまり、道德律法から自由にされた、我々はその道德律法から自由にされたということ教え始めたのです。「こうしなければならない」ということを教えると、また私たちひとり一人が自らを律法のもとに置いてしまうことになる、我々は救われたのだから好きに生きたいと言うのです。

でも、この教えの間違っているところ、皆さんもお気づきのように、聖書のどこを見ても「行いによって救いに与る」ということは教えていません。「どんなに良い行い」と私たちが思っても神の前にはそれは不完全だからです。ですから、行いによって救いに与ることはなく、律法を一生懸命守ろうと努力すれば結果として救いに与るのか？どんなに努力してもそれはできません。確かに、そのように聖書は教えています。「行いによって救いを得ることはない」と。だからと言って、道德律法からの完全な解放を教えているわけではありません。確かに、律法を守ることによって救いを得る人はだれもいません。でも、救いに与った者たちは律法に従って行きたいという思いを神からいただきます。だから、私たちは神のみことばを学び、その教えに対して、その命令に対して喜んで従って行こうとします。

皆さん、違いがお分かりになったでしょうか？神がくださる救いはそういうものです。これまでの私たちは神の教えに対して、それらを全く無視して、好き勝手に生きていました。神が私たちを救いに導いてくださったときに何が起こったのか？今度は、神が教えてくださっている神の命令に喜んで従って行こうと、そのような者に神は造り変えてくださったのです。だから、私たち救いに与った者たちは、神の律法に従って行きたい、なぜなら、それこそ神が愛しておられるものだからです。なぜなら、律法に記されていることは、神が喜ばれること、神が望んでおられること、神の聖い規準です。彼らが私たちに示されています。私たちはそれに従って行きたいという新たな思いをいただいて新しい歩みを始めたのです。ですから、皆さんもそのようにして生きています。失敗しながらでも、神の前にその罪を告白しながらみことばに従って行こうとします。神の命令に従って行きたいと。

今話していることを、宗教改革の教えがうまく説明しているのでそれを読みます。500年前のあの宗教改革において教えられた真理です。「善行は善人を生み出すものではない。しかし、善人は善行を行う。」と。これが救いです。これが神がくださったものです。だから、律法を守ることによってだれも救われません。でも、救われた者たちは喜んで律法に従って行きたいと思えます。それは救いを得るためではなく神を愛しているからです。神を愛しているから神が喜ばれること、望んでおられること、命じておられること、それを神の助けをいただきながら実践して行こうとするのです。それが救いに与ったということです。でも、この偽教師たちはそのようなことを全く無視して、我々は自由を得たのだから好きに生きたいと言います。どうすれば信仰が成長するのか？どうすればかつての罪から離れて勝利ある生活ができるのか？そのような疑問を抱いている若い信仰者たちに対して彼らが教えたことは、「好きに生きたい、自分の欲の赴くままに、だって、あなたは救われたのだから…」です。

残念ながら、このような教えは私たちの周りに存在していませんか？神は何でも赦してくださるのだから好きに生きたいと。この偽教師たちもそのような教えを信じるだけでなく、そのように誘惑をしていたのです。この人たちは自分たちが持っていない自由を人々に約束したのです。どうすれば成長できるのか？しかし、そのことに彼らが答えられるはずがありません。彼らは霊的成長に関する神の教えを知らないだけでなく、救い自体を知らないのです。立派なことを言ったとしても、彼らには救いが与えられていなかったからです。この若い信仰者たちはそういう人たちの教えに耳を傾けているのです。

・**滅びの奴隷** : そこでペテロは言います。「その人たちに自由を約束しながら、自分自身が滅びの奴隷なのです。」と。この「滅び」ということばに関してフィーバートという先生は「ただ単にこの世において罪が生み出す腐敗だけでなく、永遠の破滅、地獄へと導く霊的墮落がこのことばには含まれる。」と言います。つまり、この偽教師たちは「滅びによって捕らえられた者たち」だということです。

・**征服者の奴隷** : 彼らは滅びに向かっているし、そして、滅びの束縛からまだ自分たちは解放されていないのです。彼らは「滅びによって征服された者たち」なのです。19節「人はだれかに征服されれば、その征服者の奴隷となったのです。」、この「征服された」とは「負ける、敗北する」という意味です。この当時、戦争があったときには勝者と敗者があって敗者は勝者の奴隷となりました。勝者たちによって、征服者たちによって支配されるのです。そのときに、この奴隷たちには自分の意志も行動もすべてこの勝利者によって支配されることとなります。まさに、ペテロはそのことを言わんとするのです。

ペテロが言うことは、この偽教師たちを征服したのは、彼らに勝利したのは神ではなく罪によって、もっと言えば、サタンによってであるということです。だから、彼らを支配した、彼らに勝利した主人であるサタンの願いとおりに彼らは生きていくというのです。

I ペテロ2 : 16をご覧ください。「あなたがたは自由人として行動しなさい。その自由を、悪の口実に用いないで、神の奴隷として用いなさい。」、ここでペテロは三つのことを教えています。

(1) **あなたは自由人とされた** : 罪から解放されたということです。永遠の滅びから解放された、サタンからも解放されて自由となったのだからと。それがこの「自由人」です。そこでペテロは「自由人として行動しなさい。」と言います。つまり、自分の意志をもって神の命令を守りそれを実践するようと言うのです。

(2) **神の奴隷として自由を用いなさい** : ペテロは「神の命令にいやいや従うのではなく、あなたは奴隷なのだから、主人を愛する者だから、自ら喜んで主人に従っていきなさい。」と言います。

(3) **自由を悪の口実に用いない** : 自由を用いて自分の罪を良しとすることのないようにと言います。つまり、ここでもペテロは「あなたは自由にされたのだから何をしても構わない、ということにはならない。」と言っているのです。

これが神が教えてくださる「自由」です。皆さん、罪から救いに与った私たちは自らの自由を用いて神に従っていきましょう。神が喜ばれることを選択しようとし、自ら積極的に神の奴隷として生きて行こうとします。ところが、この偽教師たちはどうだったか？彼らは全く異なる自由を教えたのです。「何をしても構わない」と。彼らが教えていた自由と、みことばが教えている自由とはこのように違っていることに気付かれたでしょうか？そこでペテロはそのことを明らかにして、それらに耳を傾けてはならない、しっかりと真理に立つようにと教えるのです。

教会の中に偽教師たちが入り込んでいました。彼らが教会の人たちを惑わしていました。特に、若い信仰者たちを惑わしていたのです。大変危険な状態にあったのです。そのために、ペテロはこの手紙を送って「しっかりと真理に立つように」と改めて教えました。霊的に成長しなさい、そのためには神の真理に立たなければいけません。

今日、私たちは何を教えられたのか？確かに、この手紙は今から2000年ほど前に書かれたものです。日本の私たちに対して一義的に書かれたものではありません。でも、ペテロが言っていることは、今の時代、私たちの国でも同じことが言えます。このような偽りの教師たちは間違いなく様々な誤った影響を及ぼしているということです。巧みに、書物を通して？メディアを通して？かもしれません。私たちがそれらに気付いていないだけかもしれません。確かに、そのような間違った教えは私たちの周りにたくさん出て来ています。感謝なことに、私たちはそのような教えを受けて来なかったかもしれません。でも、気を付けなさいと言います。あなたの責任はしっかりとみことばに立っているかどうかです。聖書が何と知っているのか？そのことに立たなければいけません。この教えはどの国であってもどの時代であっても、年齢にも信仰歴にも関係ない神の教えです。私たちはこのみことばに立つのです。

どうか、そんな信仰者としてあなた自身が歩み出す決心をしてください。「私は何かしようとするとき、神が何と言われているのか？神のことばを知ってその教えに従っていきたい。」と。それしかあなたの信仰が成長する術はありません。それしか神に喜ばれる方法はないのです。どうか、みことばを愛して、そのみことばに喜んで従う神の奴隷として、この1週間もしっかり歩んでください。神の警告に耳を傾

けて自分を備えて行くことです。

《考えましょう》

1. 「水のない泉」、「突風に吹き払われる霧」とはどういう意味ですか？
2. 「大言壮語」の意味を説明してください。プライドの恐ろしさを説明してください。
3. 偽教師たちが誘惑をしていた人たちの説明をしてください。
また、どのように誘惑していたのかを記してください。
4. 「約束していた自由」を彼らが提供できない理由を記してください。